



No.36 (通No.115) 2024年11月7日

てつがく なかにわ

LEE'S レター 哲樂の中庭 2024年立冬

季節のごあいさつに代えてリーズからおとどけするただ一つの通信

「世界で活躍する人は…」

フィンランドの大規模見本市「ハピターレ」、日本から出展して帰ってきた友人の土産話。新しい出会いから舞い込んだ渡航の話。誘われた時は少し迷ったけど「世界は広い」を実感した旅だったようです。

「世界で活躍する人は、いい人が多いんだなと思った。いろいろな人に紹介してもらったけど、作品をしっかり批評してくれる。みなフットワークがよくて、海外へでもどこでもすっと飛んでいく。その一人が近々日本へ行くから工房を訪ねたいと言ってくれて…」

仕事のステージが確実に変わり、ライフがかわるのが容易に想像できます。

本を〈肴〉に交流サロン

秋はイベント多数、「女性チャレンジ応援拠点」の「拠点ゼミ」『車座オーブ コンサル〜時に立ちどまり〈先を読む〉〜秋』が11月9日(土)、そして11月16日(土)は好きな本を持ち寄って語り合う本のもちより会があります。当日はクレオ大阪中央館の「フェスタ」の日でもあります。おたのしみがたくさんあります。散歩がたら、いかがですか。



LEE'S (リーズ)

〒541-0046

大阪市中央区平野町1-7-1

堺筋高橋ビル5F Tel. 06-7164-0937

大阪 NPO センター RS B507

リー・ヤマネ・清実

Lee Yamane Kiyomi



豊かな混沌、静かな闘魂、微かな諦観

デスクワークしながら動画を聴いていました。著名な精神科医たちの座談会です。「…豊かな混沌…」。とっさに顔を上げて画面をみると、重鎮の先生がもう一度、「豊かな混沌」。直前にどんな話が交わされていたのか、飛んでしまったのですが、「豊かな混沌」が耳に残り、続く話も飛んでしまった。

「混沌」は新旧交代の狭間に生まれやすい。そこを抜ければ、「明るい未来」とは言えないまでも、「新しい」未来が待っている。そのための〈通過儀礼〉のようなもの。「混沌」をどう過ごすかで「明るい未来」の可能性あり。そう考えると、「豊かな混沌」は、言える。

人間個人でいえば、起業・創業を現実的に考え始めた時がその典型かもしれません。人生の重大な選択、転機。希望的観測になりがちだけど、事業の構想はふくらむ。公私ともに大小の軋轢も容易に想定できるけど、それでも自分の決心、決断に迷いが無い。「静かな

闘魂」とでもいいでしょうか…。こうみると、「豊かな混沌」と「静かな闘魂」が一對のように感じられます。

実際に起業して活動を始めてみると、“こんなはずじゃなかった…”は、よくあること。ハードルに直面して、意気消沈。でもしだいに自分の底にある「静かな闘魂」がじわじわと浮きあがってくる。

“この局面をどうしてやろう…”。脳内ではシナプスが猛進して細胞に激をいれ、フラッシュを放ちながら打開策の構図を次々と作りあげていく。けっして狼狽えず、身じろぎせず、どこか遠くをみる目が不気味です、傍目には。

いざその打開策を講じようとして動き出したとき、案外、むこうから好転の兆しがやってきたりする。そもそもそこまで正面きって向かう対象でないと気づくこともある。そんなこんなことを繰り返して至る、小さな達観、「微かな諦観」。

それでも煩惱は付きまといますが。

| 見聞感考 | 外からみる、〈あいだで考える〉

9/28付日経の書評欄で紹介されていた、「あいだで考える」シリーズ『隣の国の人々と出会う』(斎藤真理子 創元社 2024年8月)をプレゼントされました。わたし自身、日本で生まれているけど日本人じゃないという立場が自ずと〈あいだで考える〉ことなのですが、本には知らないことばかりで、勉強になりました。『訓民正音』の成り立ちが「陰陽説」を基本にしていたとは、驚きです。さっそく図書館で検索して2冊予約、でもまだ取に行っていないのですが。

本の中に「キム・エラン」という作家の言葉が紹介されています。筆写したので、「理解とは、他人の中に入って行ってその人の内面に触れ、魂を覗き見るのではなく、その人の外側に立つしかできないこと、完全に—

体にはなれないことを謙虚に認め、その違いを肌で感じていく過程」。

また、「ハン・ガン」も紹介されています。今年のノーベル文学賞受賞。さっそく韓国事情に詳しい友人に感想を尋ねたり、知合いの韓国の大学教授に本国での反応を伺いました。やはり「痛し痒し」の面あり。なんとって、「光州」、「4.3」を扱っていませんから。〈外側に立つ〉、外からみる方が適切に評価できる場合あり。

ところで「ハン・ガン」の日本での最新作は『別れを告げない』(斎藤真理子翻訳 白水社 2024年3月)、同じ「斎藤真理子」さん。友人によれば「すごい翻訳家」、調べると、たしかに。まったく知りませんでした。